

[発達心理学特論] 第6講 第1章 NO.1

世界認識の形成の開始 — 象徴機能の発生 —

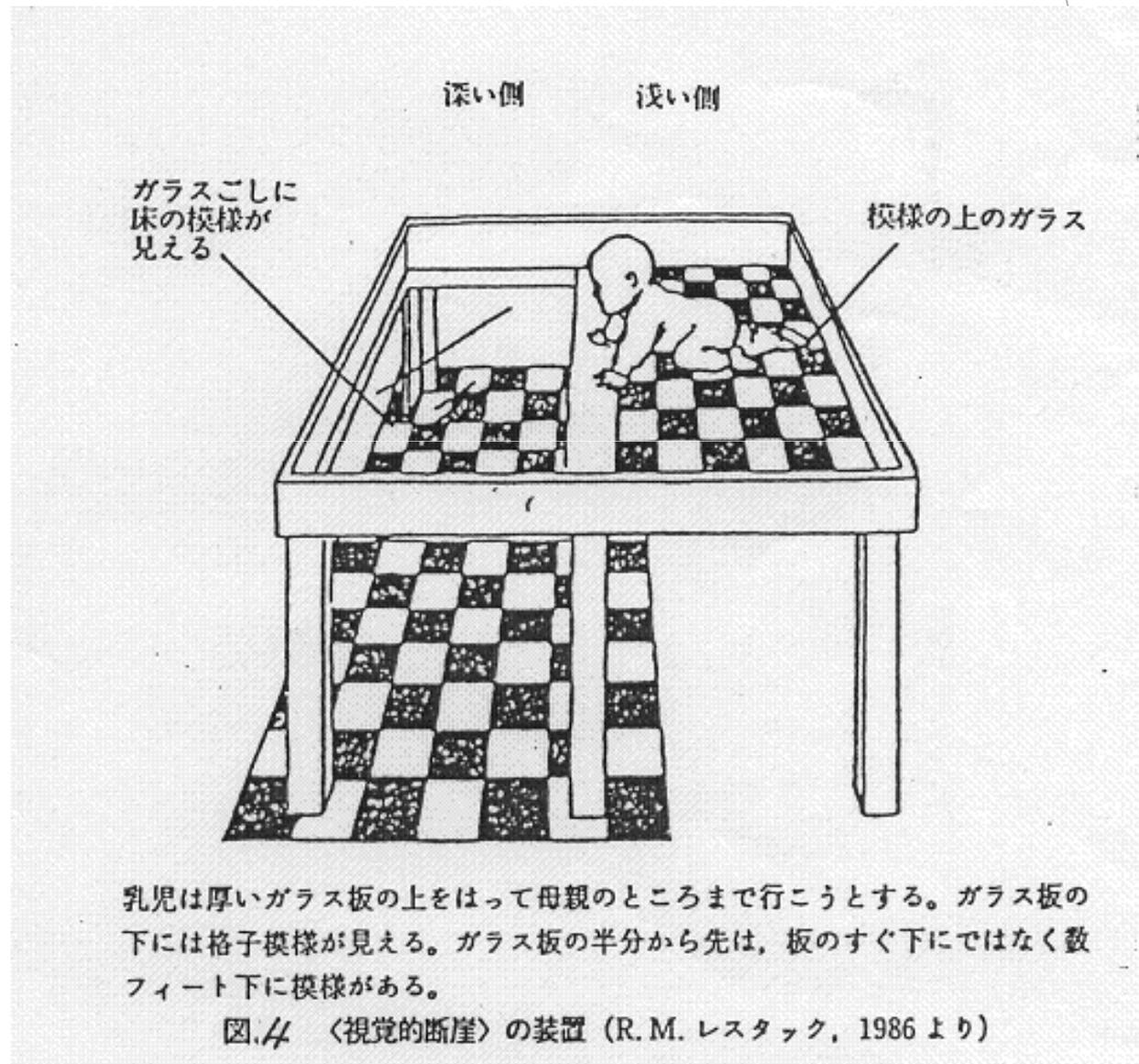


**1. 外界—モノ/ヤコト—の知り方
社会的参照**

内田伸子

uchida.nobuko@ocha.ac.jp

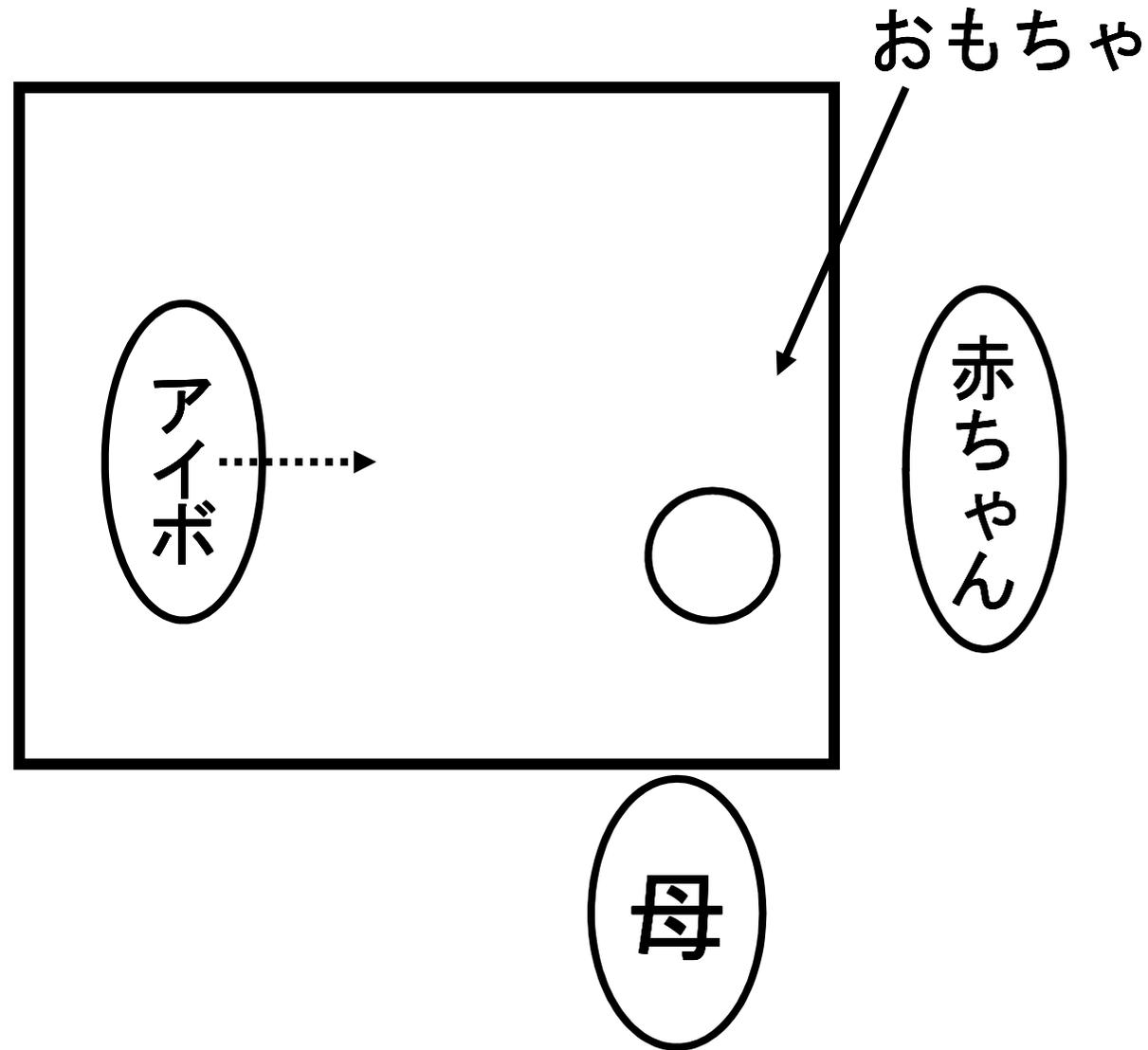
視覚的断崖実験 (Campos, et.al.,)



対面型パラダイム (by Campos, J)



こたつ型パラダイム (by 内田研)



社会的参照をする子, しない子

社会的参照 *Social Referencing*

(1) 生後10ヶ月の赤ちゃんとお母さん100組

プレイルームで遊んでもらう

犬型ロボットを提示 → 赤ちゃんびっくり

お母さんの顔を見上げる子 62名

見上げない子 38名

(2) 1歳半で同じ実験を繰り返した

62名はお母さんのところに駆け寄る

38名はお母さんに近づくが

目は犬型ロボットに釘付け

(向井, 2003)

語彙の品詞分類

「気質」 (対人対物システム)

62名

挨拶、感情表現語が6割、残りが名詞

➡ 「物語型」

人間関係に敏感

38名

95%が名詞 ➡ 「図鑑型」

モノの動きや因果的
成り立ちに敏感

世界認識の形成の開始

—象徴機能の発生—



1. 外界—モノやコト—の知り方
2. 象徴機能のはじまり
3. 母子相互作用の文化差

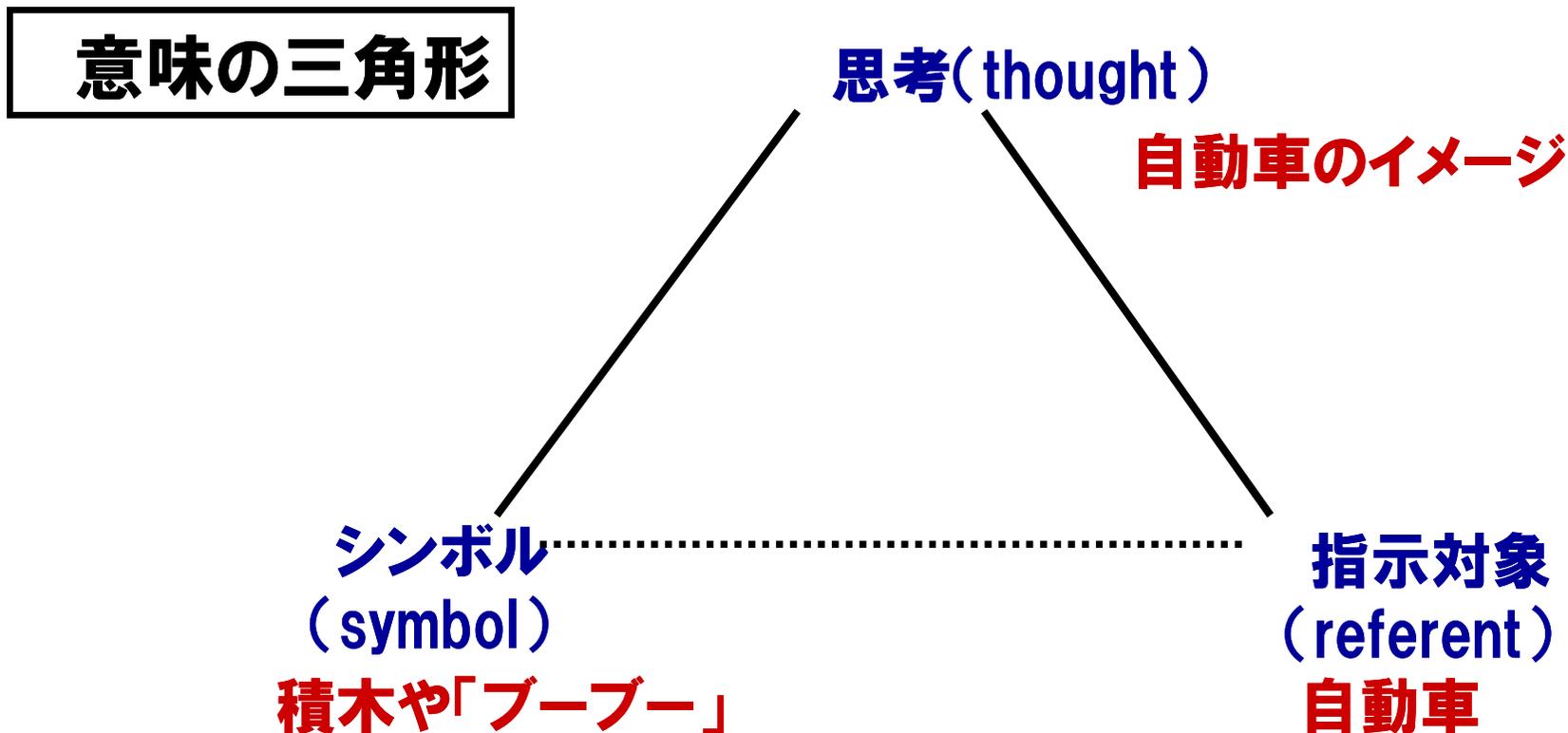
内田伸子

uchida.nobuko@cc.ocha.ac.jp

象徴機能(symbolic function)



下の図では、象徴機能はシンボルが思考を介して指示物を**間接的に**表すということを意味している。



象徴機能 (symbolic function)



★意味するもの(積木)と意味されるもの(自動車)との間には何の関係もないはず。従って意味し、意味される関係は本人が創り出したものである。意味されるものが眼前になくても、意味するものを使って自由に操ることができる。

→シンボルをもつということにより、**具体的な経験**だけでなく、**シンボルの諸形式の世界で考え**、**自分の行動を組織化**できるようになる。

象徴機能(symbolic function)



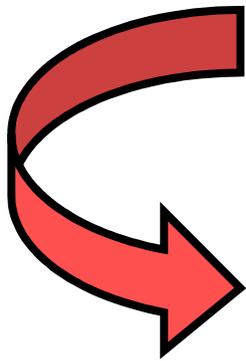
★シンボルということばの語源:

「共に(シン)投げ込む(ボル)」という意味であり、ギリシャ語では「割符」のことを意味していた。一つのを割って一方を自分、他方を相手が分かち持ち、それを合わせ照合することによって仲間の証をたてるものであったという。

象徴機能 (symbolic function)



★シンボルの特徴は「自由」ということである。
シンボルを持つようになると、人は知覚世界の束縛を逃れ、与えられた意味に満足せず、自ら意味を創り出し、そこに新しい自分の世界を築いていこうとする。いわばこれは「自由を求める精神」が働き始めるのである。

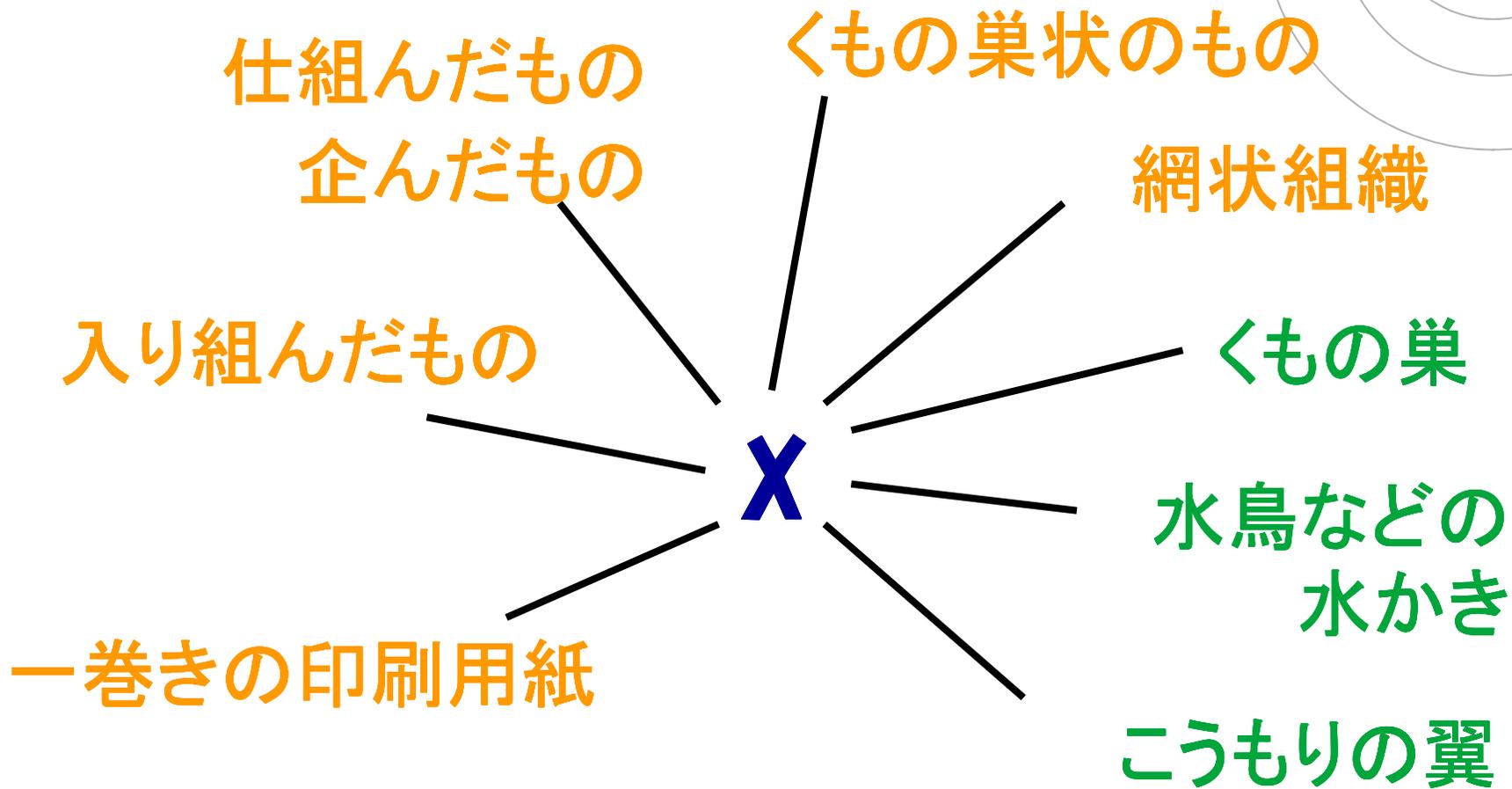


内面世界（精神世界）の出現
意味の世界に生きる
→**ことばの意味の広がり**

クイズ

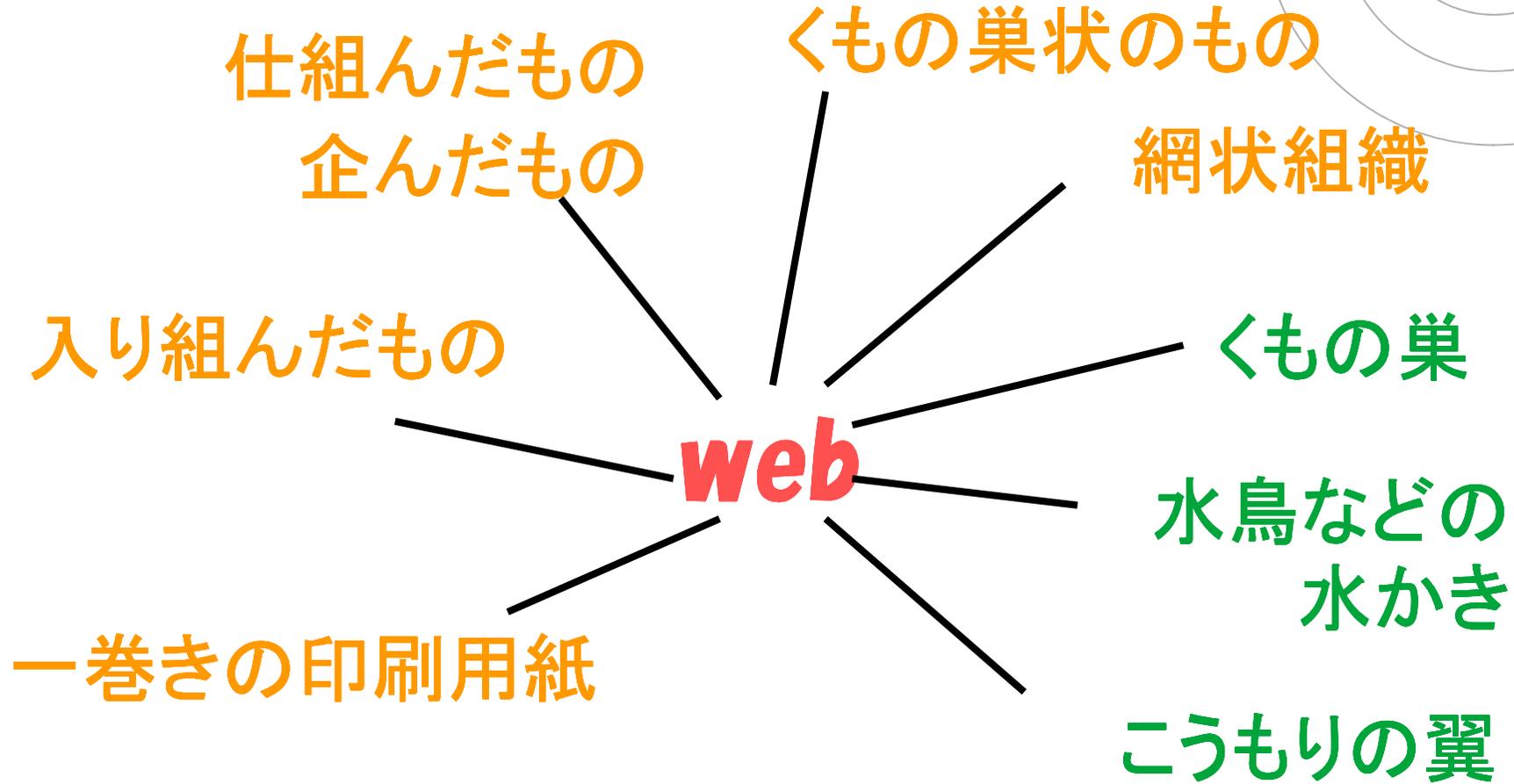
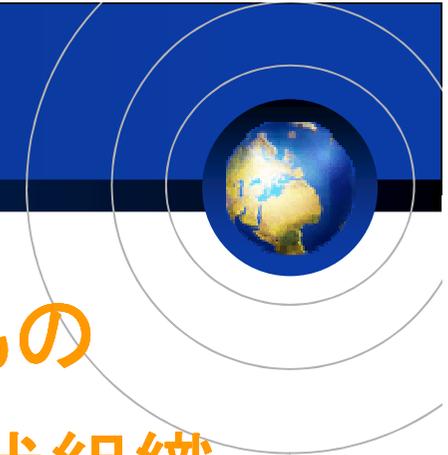


クイズ1 「Xは何のことば？」



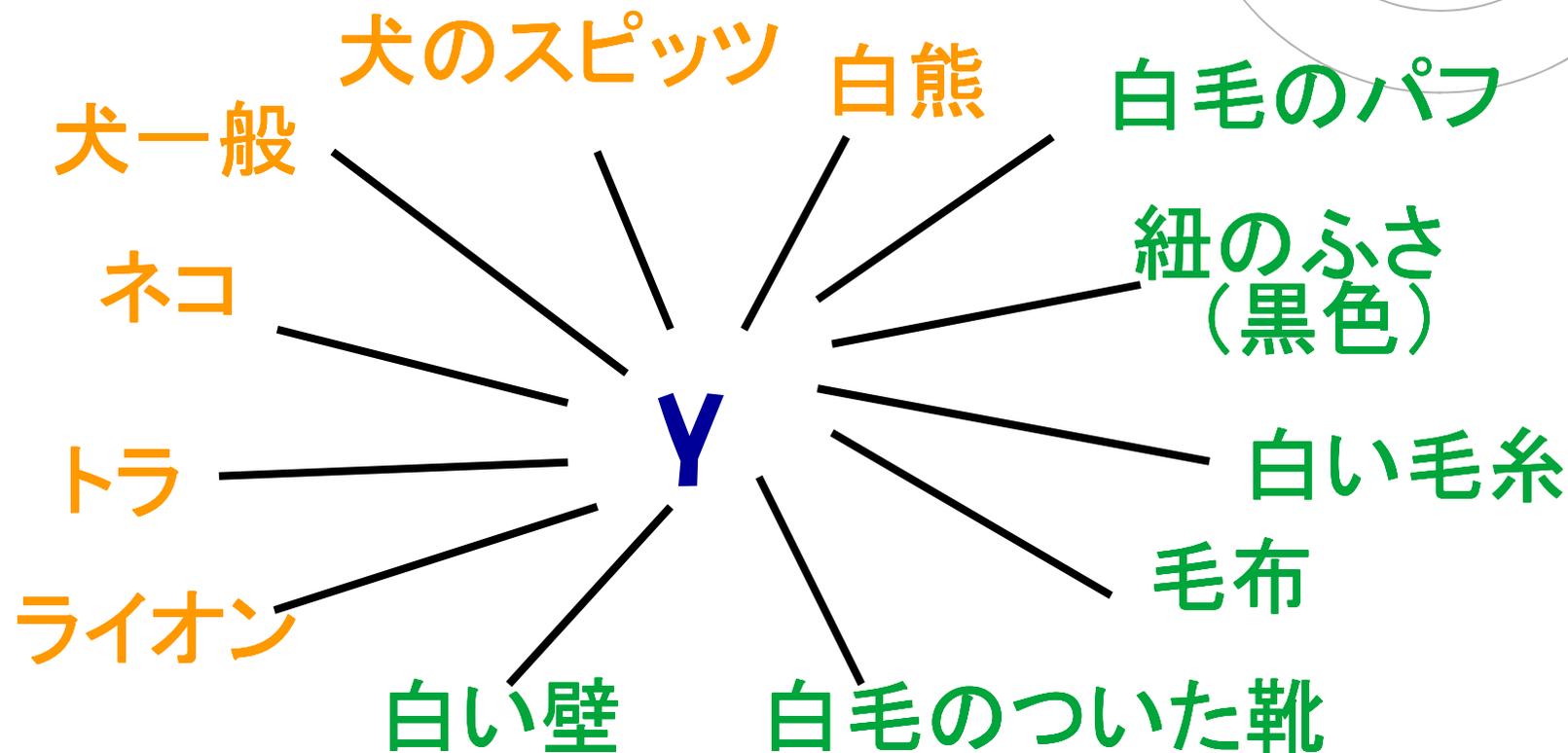
ある語” X” の意味

「Xは？」 = "web"



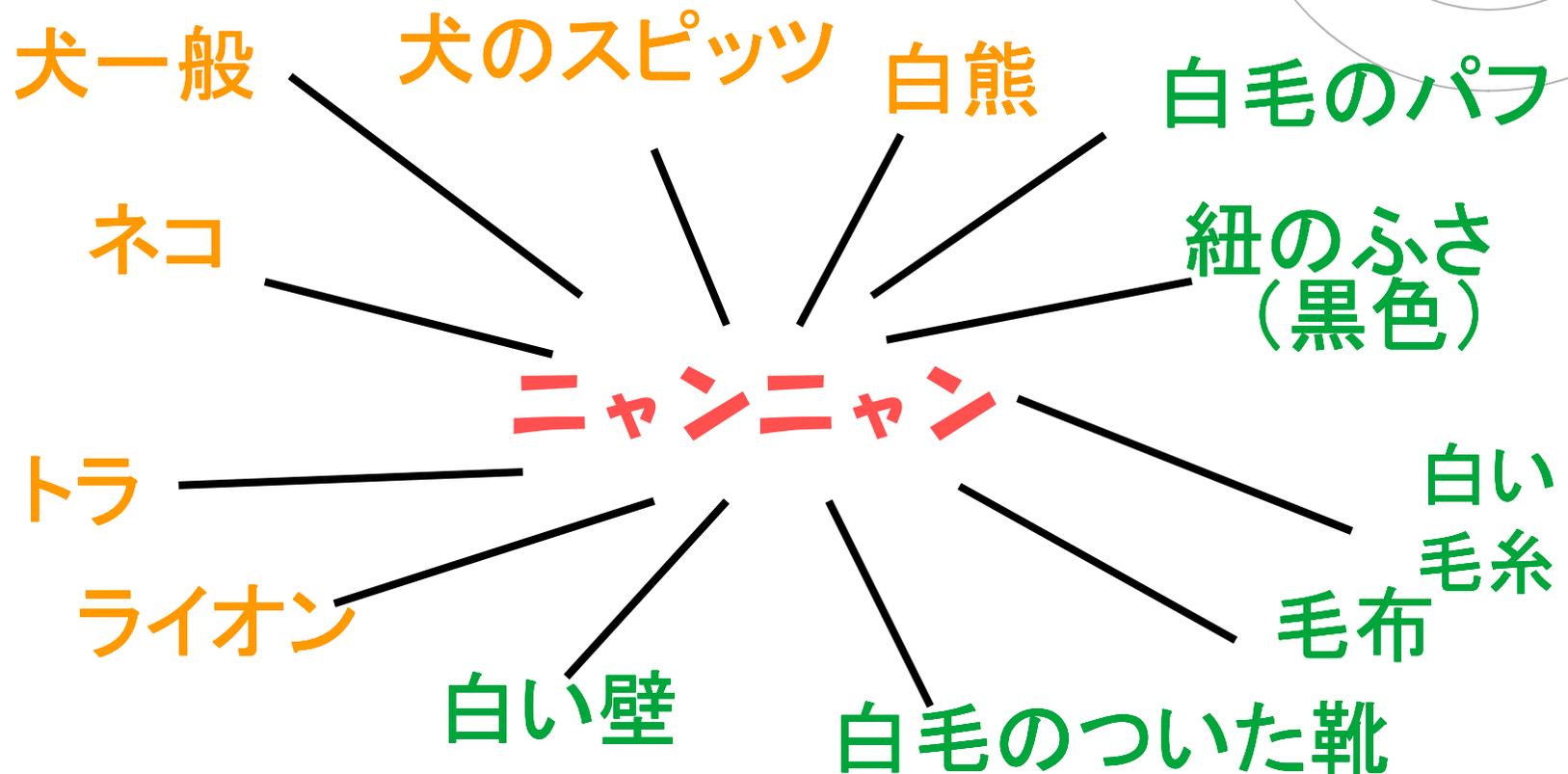
ある語" X" の意味

クイズ2 「Yは何のことば？」



ある語“Y”の意味

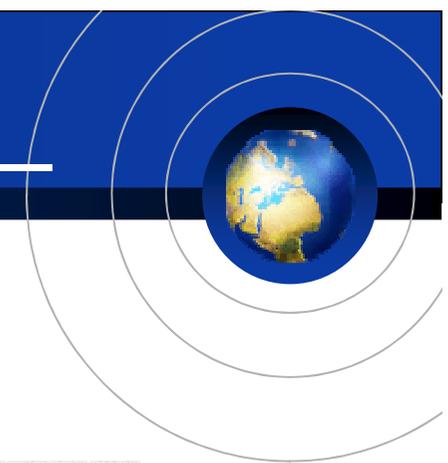
「Y は？」 = “ニャンニャン”



ある語“Y”の意味

意味の般用—“ニャンニャン”の意味は？—

cf., 46頁; 表1-2



【コラム3-1 ◎「ニャンニャン」の記号化過程 (岡本, 1962にもとづき作成)】

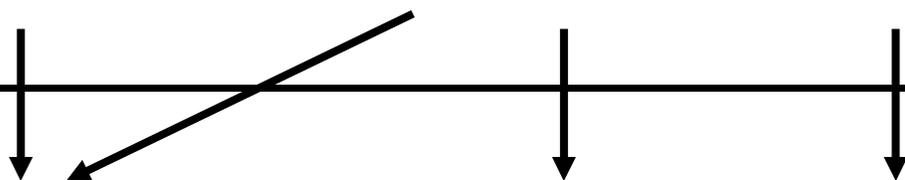
段階	CA 年月	N児の「発声」と (対象または状況)	発声行動の特徴
1	0: 7	「ニャンニャン」「ニャーン」(快の状態での喃語)	哺乳とか熟睡の後の、気分が快適な状態 (生理的要求が満たされたとき) にあるとき「ニャーン」または「ニャンニャン」が喃語として反復される。
2	0: 8	「ニャンニャン」「ナンナン」(珍しいものやうれしいものを見つけて喜んで) (種々の対象に対して)	「ニャンニャン」または「ナンナン」を自分の注意を引きつける嬉しいモノや新奇なモノ (好きなおもちゃや美しい花など) を見つけた際の喜びやそれをつかみたい要求の表出として発し始める。内的状態の表出であるという点では第1段階のそれと同じ。しかし、音声は外的な対象 (いまだ特定のモノとは結びつかず、いろいろ多様なモノではあるが) によって引き起こされている点が重要。
3	0: 9	「ニャンニャン」(純太郎絵本の白犬) (白毛の玩具のスビッツ)	特定の音声ニャンニャンが自分が前から愛玩していた「玩具の白い毛製のスビッツ」と「純太郎の絵本の中の白犬」という特定対象に結びつけられる。
4	0: 10	「ニャンニャン」(動物のスビッツ) (白毛のババ) (紐のよま (黒))	「ニャンニャン」の移換的般用が開始され、再び種々の対象や状況に対して発声される。すなわち玩具のニャンニャンは、スビッツから四足獣一般への般化方向と、スビッツの毛の材質を基礎とした般化方向へと拡大される。
	0: 11	(猫) (犬一般) (白毛糸・毛布) (白い壁)	
	1: 0	(虎) (ライオン) (白熊) (白毛のついた靴)	
5	1: 1	「ナーン」(猫) 「ナンナン」(犬)	↓
	1: 2	「モー」(牛)	
	1: 2	「ドン」(自宅の犬の名ロン)	
	1: 4	「ゾー」(象)	
	1: 5	「バンピンチャン」(パンピー)	
	1: 5	「ウンマ」(馬)	
	1: 6	「グンチャン」(熊)	成人語を含む種々の動物や乗り物の名前が使用できるようになり「ニャンニャン」の使用範囲は縮小され、スビッツの毛の材質的類同性の系統に限定される。
6	1: 7	「クロニャンニャン」(黒白ブチの犬) 「ニャンニャングック」(白毛の靴)	二語文使用が始まり、「ニャンニャン」の四足的類同性の系統は対象表示的機能を持ち、材質的類同性の系統は状態表示機能をもつようになる。
	1: 7	「ネコ」(猫) 「ワンワン」(犬) 「オーキニャンニャン」(大きい白犬)	
	1: 8	「クマニャンニャン」(ぬいぐるみの熊) 「シュビッツ」(実物のスビッツ) ブチ (近所のスビッツの名)	
7	1: 9	「ブチノヤネブチニアゲルワ」 (ブチのだからブチにやろうー白毛の靴を持って)	ここでは「ニャンニャン」は種と姿を消し、それに代わって慣用語「ワンワン」が理解・使用両面で記号として用いられ、実物が目の前に存在しない場面でも、語として動き、会話の中で完全に言語的伝達の役割を果たすに至る。
	1: 10	「ワンワンデレウ」(戸外の犬の鳴声を聞いて)	
	1: 11	「オーキワンワンワンワンニウヘンワ」 (大きい犬が鳴かずに遠るのを見て)	
		(脚人よりキーキをもらって) (絵本のロボをさして) N児「ダレガクレタノ？」 N児「コレ ナニウマ？」 母「しのはらさん」 母「ろばさん」 N児「ワンワンイルシノハラサン？」 N児「ロボウマ？」	

「ニャンニャン」の記号化過程

(Okamoto, 1962を参考に作成)



段階	CA 年月	N児の「発声」と(対象または状況)
1	0:7	「ニャンニャン」「ニャーン」 (快的状态での喃語)
2	0:8	「ニャンニャン」「ナンナン」 (珍しいものやうれしいものを見つけて喜んで) (種々の対象に対して)
3	0:9	「ニャンニャン」 (桃太郎絵本の白犬) ← (白毛の玩具のスピッツ)



「ニャンニャン」の記号化過程

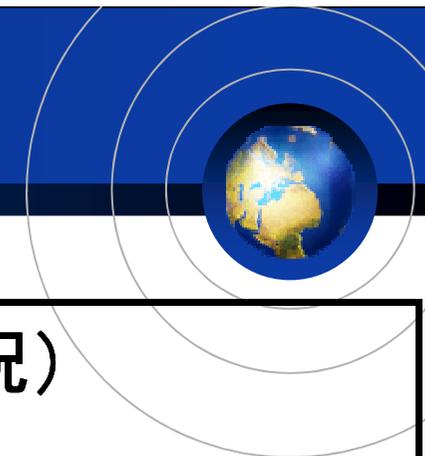
(Okamoto, 1962を参考に作成)



段階	CA 年月	N児の「発声」と(対象または状況)	
4	0:10	「ニャンニャン」 (動物のスピッツ)	(白毛のパフ)→(紐のふさ(黒))
	0:11	(猫)←(犬一般)	(白い毛糸・毛布)→(白い壁)
	1:0	(虎) (ライオン) (白熊)	(白毛のついた靴)
5	1:1	「ナーン」(猫)「ナンナン」犬)	
		「モー」(牛)	
	1:2	「ドン」(自宅の犬の名ロン)	
	1:4	「ゾー」(象)	
	1:5	「バンビンチャン」(バンビー)	
	1:5	「ウンマ」(馬)	
	1:6	「クンチャン」(熊)	

「ニャンニャン」の記号化過程

(Okamoto, 1962を参考に作成)



段階	CA 年月	N児の「発声」と(対象または状況)	
6	1:7	「クロネコニャンニャン」 (白黒ブチの犬) 「ネコ」(猫)「ワンワン」(犬)	「ニャンニャンクック」 (白毛の靴)
	1:8	「オーキニャンニャン」 (ぬいぐるみの熊) 「シュピッツ」 (実物のスピッツ) プチ (近所のスピッツの名)	「ニャンニャンチョッキ」 (白毛糸のチョッキ)

「ニャンニャン」の記号化過程

(Okamoto, 1962を参考に作成)



段階	CA 年月	N児の「発声」と(対象または状況)
7	1:9	「プチノヤネプチニアゲルワ」 (ブチのだからブチにやろうー白毛の靴を持って)
	1:10	「ワンワンでしょう」(戸外の犬の鳴き声を聞いて)
	1:11	「オーキイワンワンワンユワヘンワ」 (大きい犬が鳴かずに通るのを見て) (隣人よりケーキをもらって) N児「ダレガクレタノ？」 母「しのはらさん」 N児「ワンワンイルシノハラ サン？」
		(絵本のロバをさして) N児 「コレ ナニウマ？」 母「ろばさん」 N児 「ロバウマ？」

般用 (generalization)



- 有意味語を獲得する過程で起こる。
- 自分の手持ちのことばで名前の知らない対象を呼ぶこと。

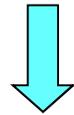


例 海岸でウニを見つけた2歳児
「ボール」と呼んだ。
拾おうとはしなかった。

般用 (generalization)



共通性と差異とを認知



(1) 語彙を拡大する原則の一つ

(2) 帰納的に考える傾向

私たちの心が、新しい情報は既知情報に関連
づけて導入するという心の傾向

→ 世界を 知覚し、学び、考える やり方

語彙＝隠喩(metaphor)?



dead metaphor

机の足 冷たい人 国父 船を漕ぐ 本の一
葉 灼熱の気質 考えを見てとる 頭金、等

クイズ;

e.g., **"to kick the bucket"**?

"crane"?

Dead Metaphor



“to kick the bucket”

I 文字通り(バケツを蹴とばす)

II メタファー(動物の最後のあがき)

III idiom(死ぬ・往生する)

e.g., *His heirs were greedily*

waiting for him to kick the

bucket.

Dead Metaphor



“crane”

- I 鶴(鳥のみ指していた)
- II 首を高くあげるやり方
- III 高く引き上げる装置

ことばの意味



「ミドリ」の意味は？

緑という色名か？



「みどりご」

「みどりの黒髪」

ことばの意味



佐竹昭廣(1955)

◆万葉集・古今和歌集の分析

ミドリの語義 = 「**新芽**」と再建される

◆純粹に色を色として指示する色名としてあった語ではなく、意味の変化によって色名の資格を得た語

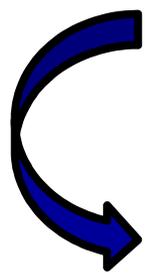
* 上代に生活した人々がミドリを色として識別していなかったわけではない。

言語は静的ではない



**ことばは 成長し変化し話す人の必要を
満たしていく人間の道具**

⇔新しいものを理解するために古い
ものを利用する = **般用**



言語獲得とは

一種の比喩の創造や理解

発達心理学概論[特論] 第6講 第1章 NO.3

世界認識の形成の開始

—象徴機能の発生—



1. 外界—モノ/ヤコト—の知り方
2. 象徴機能のはじまり
3. 母子相互作用の文化差

内田伸子

uchida.nobuko@ocha.ac.jp

母子コミュニケーションパターン



母子相互交渉の日米文化比較研究

(Caudill, W.

&Weinstein,H.,1969)

(1)調査対象地域

日本:東京と京都

米国:ワシントン郊外とロスアンゼルス

(2)対象年齢

★3, 4ヶ月児 日米各30ケースずつ

2歳半(1964)20ケース

6歳 (1967)20ケース

母子コミュニケーションパターン



母子相互交渉の日米文化比較研究
(Caudill, W. & Weinstein, H., 1969)

(3) 母子関係の調査を繰り返した

★ Caudillの急逝により3,4歳児のデータのみ
分析・報告(残念!)

(4) 観察法

★ タイムサンプリング法

家庭訪問、母子相互交渉

タイムサンプリング法



(1) 観察時間

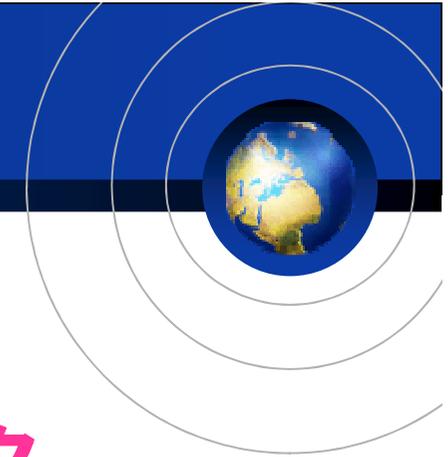
★1日に2時間半

●1日目; 午前9:30～正午まで

●2日目; 午後1時半～4時まで

⇒2日間計5時間の観察

タイムサンプリング法



(2) 観察方法

1. 15秒毎にチェックリストにチェック
2. 1分間に4回⇒10分継続で計40回
3. 5分間休憩

●以上を2時間半繰り返す

⇒合計1時間40分(100分)計400回

●2日間繰り返す

⇒総計800単位分のチェック

(3)チェックリスト



★乳児の行動カテゴリー

[12項目]

①目覚めている ②哺乳(母乳・人工乳)

③食事(固形物) ④指すい or ⑤おしゃぶり

●発話 (⑥Unhappy or ⑦Happy Vocalization)

●活動性 (⑧活動的か⑨不活発か)

●遊び (⑩おもちゃで・⑪手遊び・⑫他の物で)

養育者の行動カテゴリー



[15項目]

- ①乳児と同室に居るか ②食事の世話
- ③おむつかえ ④衣服の着脱の世話
- ⑤乳児の位置の変更
- ⑥乳児をなだめたり、寝かしつけるため乳児の身体に触れたり軽く叩いたりする
- ⑦その他の養育行動
- ⑧乳児と遊ぶ

養育者の行動カテゴリー



⑨愛情表現(キスや⑩ほほずり)

⑪乳児を見つめる

⑫乳児への話しかけ(ハミングや歌)

⑬乳児への話しかけ(語りかけ)

⑭腕に抱っこしている

⑮前後にゆすっている

結果



(1) 日米で差のなかった項目

● 乳児について

① 乳児が目覚めている時間

② 乳児が飲んだり他の食べ物を摂取
している時間

結果



(1) 日米で差のなかった項目

● 母親について

① 母親が乳児の側にいる時間

② 母親が乳児の側から離れている時間

⇒ 日本の母親も乳児につきっきりではない

③ 授乳にかかる時間

④ おしめや衣服着脱に費やす時間

結果



(2)日米で差の出た項目

①働きかけ； 米 > 日本

●米国の母親

盛んに話しかけ、乳児の寝ている位置を 頻繁
に変える

●日本の母親

あやしたりゆすったりが多く、おしゃべりではない

結果



②話しかけ； 米 > > 日本

●米国の母親

母親の言うことを乳児が理解しているとも思っているかのように盛んに話しかける

●日本の母親

母親が話しかけるとき

⇒乳児が泣いたりむずかったりしたときに乳児をあやしたりなだめたりするときに限られる

結果



③反応の速さ； 米 >> 日本

●米国の母親

乳児が声を出すと敏感に応じる、部屋への出入りも頻繁

結果



④乳児の睡眠時の働きかけ;

米<<日本

●米国の母親

別室で家事をする

●日本の母親

側にいて乳児をじっとみつめているが背中におぶったり腕に抱いたり、乳をふくませたり衣服の着脱すらする

結果



⑤乳児の睡眠形態： 米 > 日本

●日本の母親

絶えず睡眠中の乳児に働きかけるため、乳児の眠りは断続的になりがち

結果



⑥乳児の活動性： 米 >> 日本

●米国の乳児

活発に遊び、機嫌のよい発声が多い

●日本の乳児

大人しく、発声するときはむずかり声

母子コミュニケーションパターンの変化



- 1970年代と1990年代では子育てのスタイルが変化した。
- 日米の母子コミュニケーションパターンに違いは見られるか？

★Fernald, A. & Morikawa, H. (1993)

母親語・育児語(motherese)



乳児が有意味語を発話はじめる頃に養育者が意図的・非意図的に用いる慣用語とは別の語.

例「ワンワン」「ブーブー」「ウマウマ」

★Fernald, A. & Morikawa, H. (1993)

Ss: 米人母子・日本人母子各30組.

デザイン: 言語(日・米)×3月齢(6・12・19ヶ月)×10組(男女)の3要因計画.

母親語・育児語(motherese)



観察方法:日・米2人で観察. 観察者がなれた後に観察開始.

- (1)研究目的(母親のことばかりに注意している)は言わない.
- (2)母子に10分間子どもの玩具で遊んでもらう.
- (3)2セットの玩具の導入; 1. 犬と豚のぬいぐるみ・2. 木製の乗用車とトラック車
- (4)1セット目の玩具を使って母子で遊ぶのを3~5分観察.

母親語・育児語(motherese)



分析方法:各セットにつき最初の2.5分(計5分)の遊びの中で生ずる発話を分析。

1. pause/syntax/prosodyから発話単位を分割。→玩具に関連しているもの、していないものに分類した。→3タイプ

●成人語; dog・イヌ

●成人語 + affix; doggy・コ-イヌ-チャン

●オノマトペ; woof-woof・ワン-ワン

母親語・育児語(motherese)



2. 語彙使用の一貫性;一貫しているか
3. 言語の複雑性;内容語が1語か2語か
4. 玩具に対する質問;**What's this?**
5. 玩具の音;名前ではなく鳴き声や車の音の描写「**わんわんわん**」「**ブーブーブー**」
6. 動作;玩具自体の動作か(車を走らせる)
玩具に対する動作(イヌにほほずりする)
かの分類.

母親語・育児語(motherese)



結果：●玩具に関連ある発話

1. 全発話量：**日** > **米**
2. 玩具関連発話量：**米** > **日** 月齢高 > 低
3. 玩具の命名：**米** > **日**
(名詞でラベル付けすることが圧倒的に多い)
4. 成人語：**米(60%)** > **日(24%)**
5. 成人語 + affix：**米** > **日**

母親語・育児語(motherese)



6. オノマトペ: 日 > > 米

★最も差が大きかった。日本人はどの月齢群でもオノマトペをよく使い、ラベル付けの52%を占めた。米人はオノマトペを名詞に使うことはなかった。

7. 語彙使用の一貫性: 米 > > 日

8. 発話の複雑性: 日 > 米

(名詞に形容詞や動詞を加える)

9. 質問: 米 > 日, 19ヶ月 > 12ヶ月

母親語・育児語(motherese)



10: 名詞ラベルに対する質問

米(全ラベルの41%) >> 日

(18%)

11: 玩具関連発話: 米 > 日

12: 玩具の音についての発話: 日 > 米

6ヶ月 > 12・19ヶ月

●玩具に関連のないその他の発話:

1. 動作の動詞

2. 社会的ルーチン(あいさつ, 情緒的ルーチン)

日 >> 米(日は米の2倍!!)

12ヶ月 > 6・9ヶ月

母親語・育児語(motherese)



**米の母親は名詞教示的,
日本の母親は命名より
情緒的やりとりを重視する**

(米の母親はより頻繁に玩具のラベル付けを行い、一貫した語を呈示していた。日本の母親はラベル付けすることが少なく、言語的な礼儀正しさを強調しながら、社会的やりとりのなかで玩具を使うことが多かった。)

母親語・育児語(motherese)



→言語構造の違いではなく乳児に向ける発話の仕方に差がある.

米;子どもに事物の名前に注意を向けさせようとする.

“That’s a car?”

See the car? You like it?

It’s got nice wheels.”

母親語・育児語(motherese)



日；育児語を遅くまで使用し続け、社会的・情緒的ルーチンを重視する。

●社会的ルーチン；

「はい、ぶーぶーよ。はいどーぞ。これあげるね。
はい。これちょうだい。ちょうだい。はい。ありがとう」

●情緒的ルーチン；

「はい、わんちゃん。かわいいかわいい、してね。
かわいいかわいい。」

同一文化内での母子相互作用



- 養育者と乳児の比率がコミュニケーションパターンに影響を与えるか？

★養育者と乳児の比率 1:1, 1:3, 1:8

- 初期のコミュニケーションパターンの違いは子どもの言語発達や認知発達に影響を与えるか？

養育者と乳児の相互作用



「初期言語行動の成立過程」

内田・泰野(1979)

(1)対象児:以下の3つの環境から2名ずつ

X:複数保母制[1:8]

Y:担当保母制[1:3]

Z:家庭(長子)[1:1]

成育環境の違いの測度



HOME (Home Observation Measurement of the Environment by Caudwell, 1978)による環境の相違点

I. 情動的・言語的応答性

例 母親が子どもの発声ないし言語で応答する(11項目)

II. 禁止や罰の回避

例 母親は訪問中にあからさまな不快感や憤りを示さない(8項目)

養育者と乳児の相互作用



Ⅲ. 物理的・時間的環境の整備

例 子どもは週に少なくとも4回は戸外に連れ出される(6項目)

Ⅳ. 適切な遊具の用意

例 子どもは歩行器、豆自動車、三輪車など乗ることのできるものを持っている(8項目)



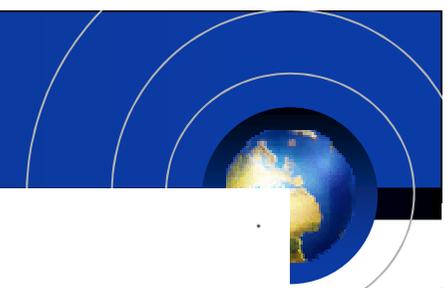
V. 子どもへの介入の方法

例 母親は子どもに新しいスキルを発達させる意図を持っておもちゃを与える(6項目)

VI. 日常の刺激に多様性を与える機会

例 父親は毎日何らかの世話をする(5項目)

HOME インタビュー用紙



HOMEインタビュー用紙

面接日 年 月 日 担当者

名 姓 _____ 性別 _____
 生年月日 年 月 日 _____
 生 誕 地 _____

I (1)	II (2)	III (3)	IV (4)	V (5)	VI (6)	VI (7)	Total
							45

※ 観察による (コンピュータインタビュー用紙)

I. 母親の積極的、言語的応答性

- * 1 訪談中 母親が少なくとも2回 積極的に子どもに話しかける。(叱責を除く)
- * 2 母親が子どもの発音に 発音しない音韻的単位や 応答する。
- * 3 母親が訪談中に 発音不明の語を話し始める場合は 発音不明の語を繰り返す。
- * 4 母親の話し言葉には 繰り返しと明確な応答に 関連する。
- * 5 母親が観察者の 言語的やり取り (utterance) 質問に 目撃的に対応する。
- * 6 母親が 考えを自由に 言葉に表現する。 (発音不明の語の表現、逆意の表現)
- * 7 母親が 子どもに 発音不明の語を (utterance) 繰り返す。
- * 8 母親は 子どもに 発音不明の語を 訪談中 積極的に 2回以上 繰り返す。
- * 9 子どもについて おおむね 1分間 発音不明の語に 対応する 発音不明の語を 繰り返す。
- * 10 母親が 訪談中 少なくとも 1回は 発音不明の語を 観察者 (observer) に 繰り返す。
- * 11 母親は 訪談中 少なくとも 子どもに 発音不明の語を 繰り返す。

II. 禁止語の回避

- * 12 母親の 訪談中 子どもに対して 声を荒らげない。
- * 13 母親は お叱りや 叱責や 懲りや 罰を 子どもに 示さない。
- * 14 母親は 訪談中 子どもを 叱責したり 罰を 示したり しない。
- * 15 適宜 距離に 1歳以上の 行動を 与えて いない。
- * 16 母親は 訪談中 子どもに 叱責や 懲りや 罰を 示したり しない。
- * 17 母親は 訪談中 子どもに 行動に 干渉したり 子どもに 行動を 示したり しない。
- * 18 少なくとも 10分の 訪談中 少なくとも 1回は 叱責や 懲りや 罰を 示したり しない。
- * 19 家庭が マットを 敷かない。

III. 物理的、時間的環境の整備

- 20 母親が 訪談時 少なくとも 子どもに 言葉を 使ったり (1分間に 2人以内の 話)
- 21 訪談時 子どもに 1歳に 少なくとも 1歳に 少なくとも 1回 話しかける。
- 22 子どもは 1歳に 少なくとも 4回に 1回に 話しかける。
- 23 子どもは 1歳に 少なくとも 1回に 1歳に 少なくとも 1回に 話しかける。
(1歳未満は 1歳に 1回に 1歳に 1回に 話しかける)
- 24 子どもは 1歳に 少なくとも 1回に 1歳に 1回に 話しかける。
- 25 子どもは 1歳に 少なくとも 1回に 1歳に 1回に 話しかける。

IV. 適切な玩具の使用

- 26 子どもは 箱筒を 握って 遊ぶ (squeeze and play) おもちゃ 玩具を 持ってくる。
(ブロック、ボール、のり棒、テープ、リボン、紙、おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ)
- 27 子どもは 引き玩具や 押し玩具を 持ってくる。
- 28 子どもは 歩行器、歩行玩具、自動玩具、三輪車などを持って 遊ぶ。(おもちゃ、おもちゃ)
- 29 母親は インタビュー中に 子どもに おもちゃを 与えたり 玩具を おもちゃを 与えたり する。
- 30 年中に おもちゃ 玩具の 使用状況: quality toy or hole-playing toy
(おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ) おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ
- 31 年中に おもちゃ 玩具の 使用状況: ball, teething toy, ring, rattle, etc.
(おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ) おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ
- 32 子どもは 箱筒の 玩具の使用状況: (おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ)
- 33 子どもは 箱筒の 玩具の使用状況: (おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ)
- 34 子どもは 箱筒の 玩具の使用状況: (おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ)

V. 母親の子どもへの介入

- * 35 母親は 子どもを 目の 届く 範囲に おく。 (おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ)
- * 36 母親は 1歳以上の 子どもに 話しかける。 (おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ)
- * 37 母親は 1歳以上の 子どもに 話しかける。 (おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ)
- * 38 母親は 1歳以上の 子どもに 話しかける。 (おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ)
- * 39 母親は 1歳以上の 子どもに 話しかける。 (おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ)
- * 40 母親は 1歳以上の 子どもに 話しかける。 (おもちゃ、おもちゃ、おもちゃ)

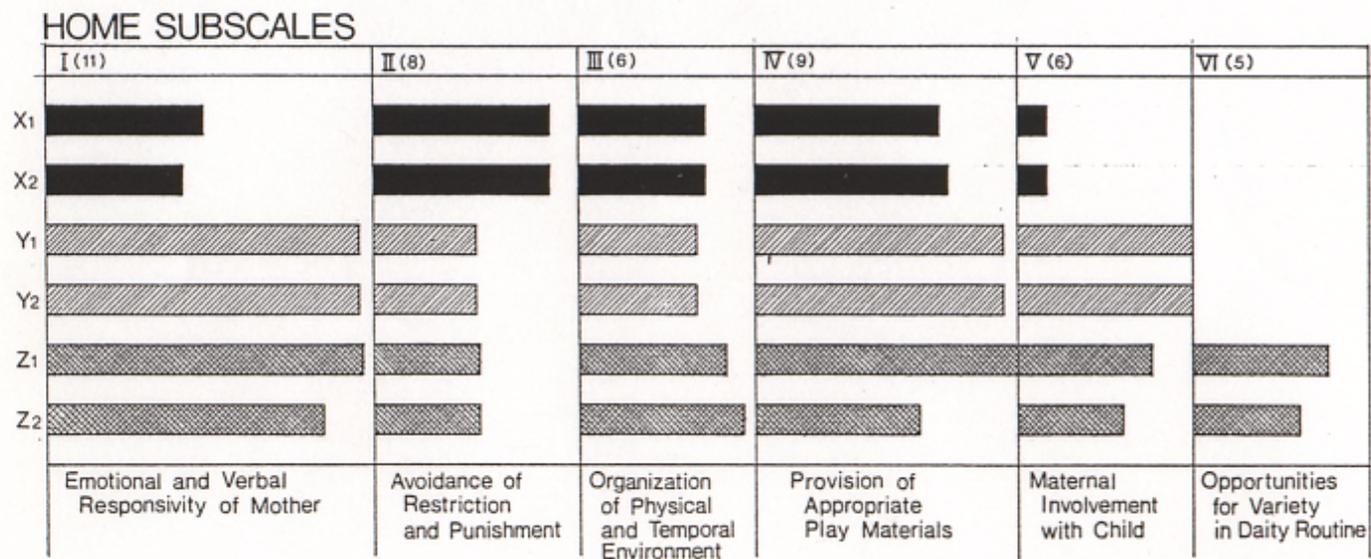
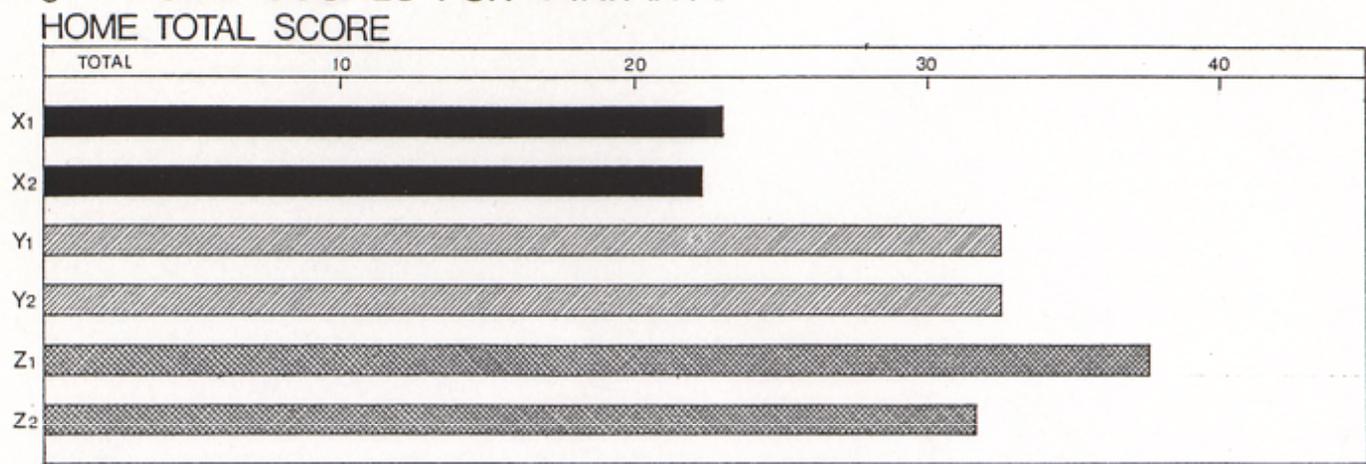
VI. 日常の刺激に多様な 応答を 与える 機会

- 41 父親は 毎日 少なくとも 1回は 子どもに 話しかける。
- 42 母親は 毎日 少なくとも 1回は 子どもに 話しかける。
- 43 子どもは 1日のうち 少なくとも 1回は 父親、母親と 1歳に 少なくとも 1回は 話しかける。
- 44 家庭は 月に 1回は 1回は 父親、母親と 1歳に 少なくとも 1回は 話しかける。
- 45 子どもは 1歳に 1回は 1回は 父親、母親と 1歳に 少なくとも 1回は 話しかける。

HOME尺度値



Fig.4 HOME SCORES FOR 6 INFANTS



タイムサンプリング



方法: タイムサンプリング法

◆5時間／1日

(午前2時間半＋午後2時間半)

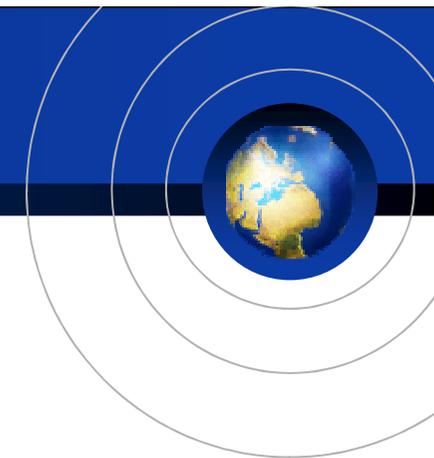
◆15秒に1回 4回／1分間

→10分観察、5分休止



◆1日200分800回単位

チェックリスト項目



期間：生後1ヶ月～18ヶ月

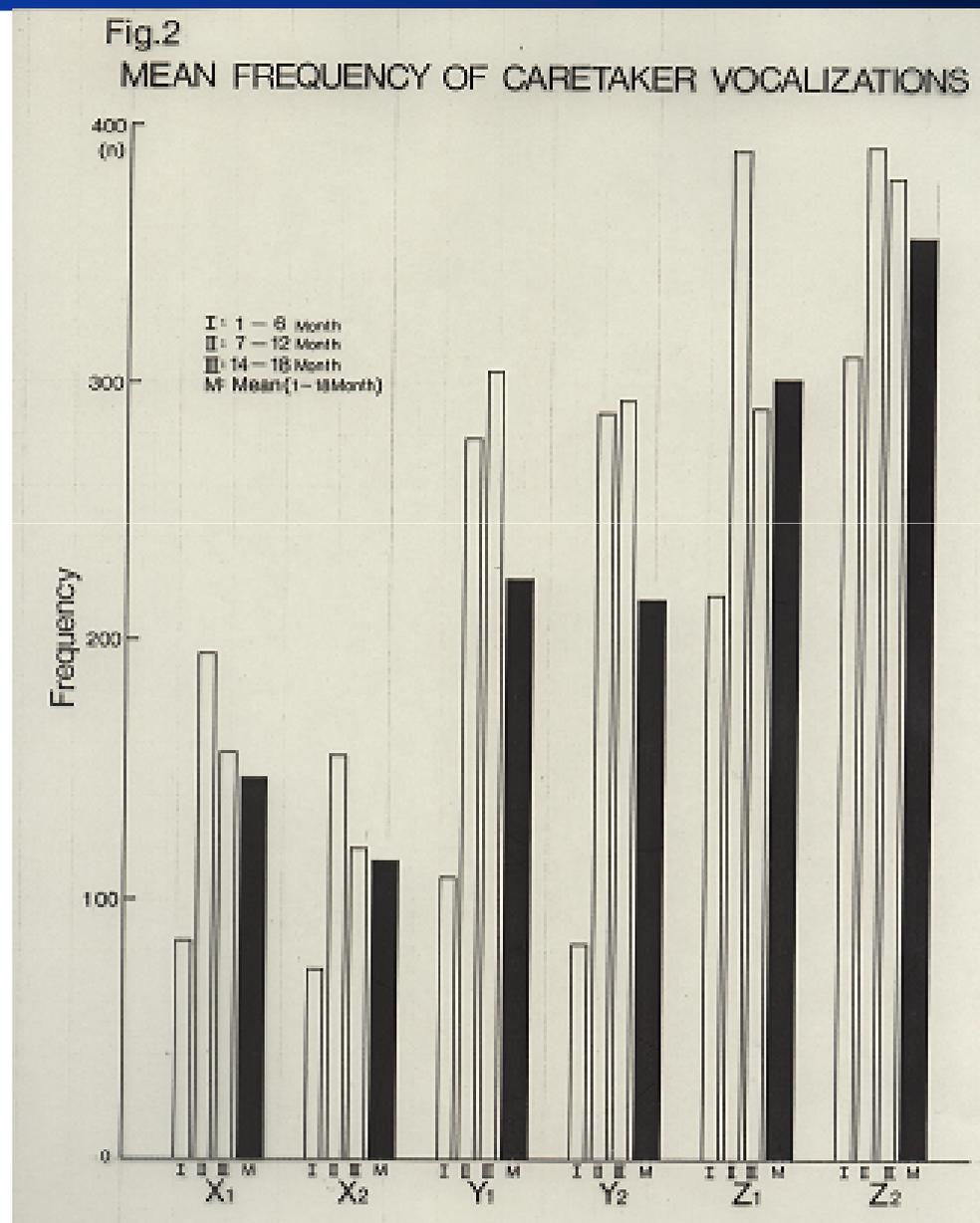
チェックリストの項目：

**①乳児の行動：目(5)・口(12)・顔(8)
手腕(7)・全身(12)**

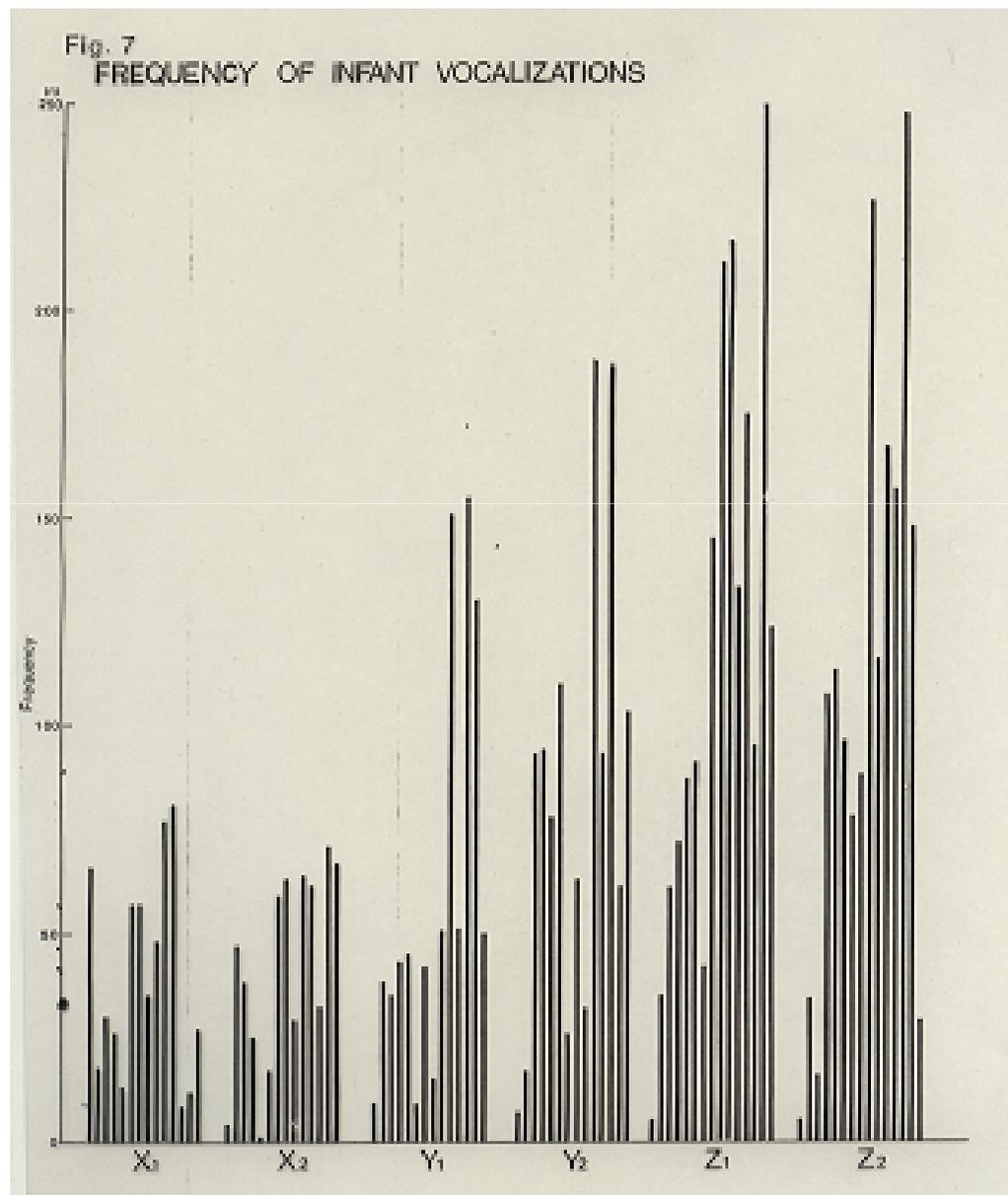
**②養育者の行動：養育行動(12)・愛情行動(11)
遊び(10)・言語行動(6)**

**③乳児と養育者の距離：接触・手が届く・
視野内・視野外**

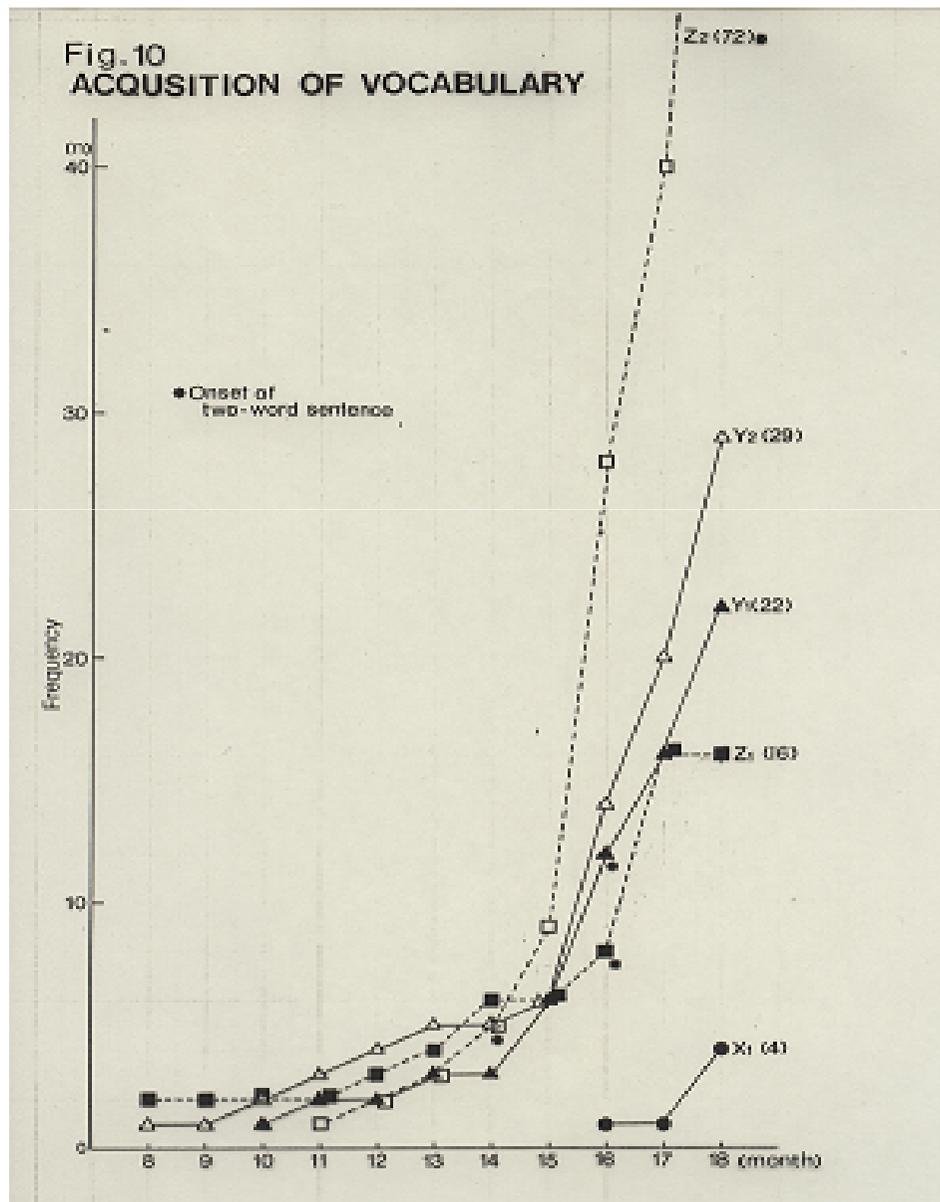
養育者のことばかけの頻度 $X < Y < Z$



乳児の発声頻度 $X < Y < Z$



有意味語の獲得 $Z1/Y2/Y1 > Z2 > X1$



養育者のことばかけと乳児の言語発達

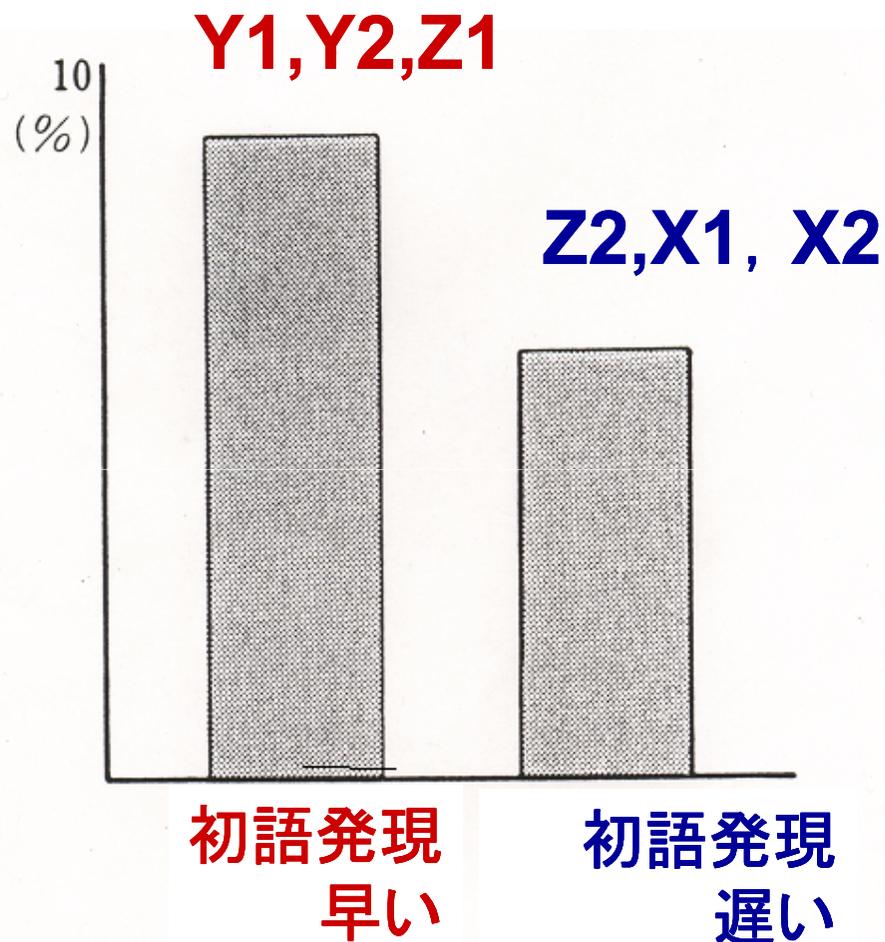


養育者のことばかけ; $X < Y < Z$

乳児の発声行動; $X < Y < Z$

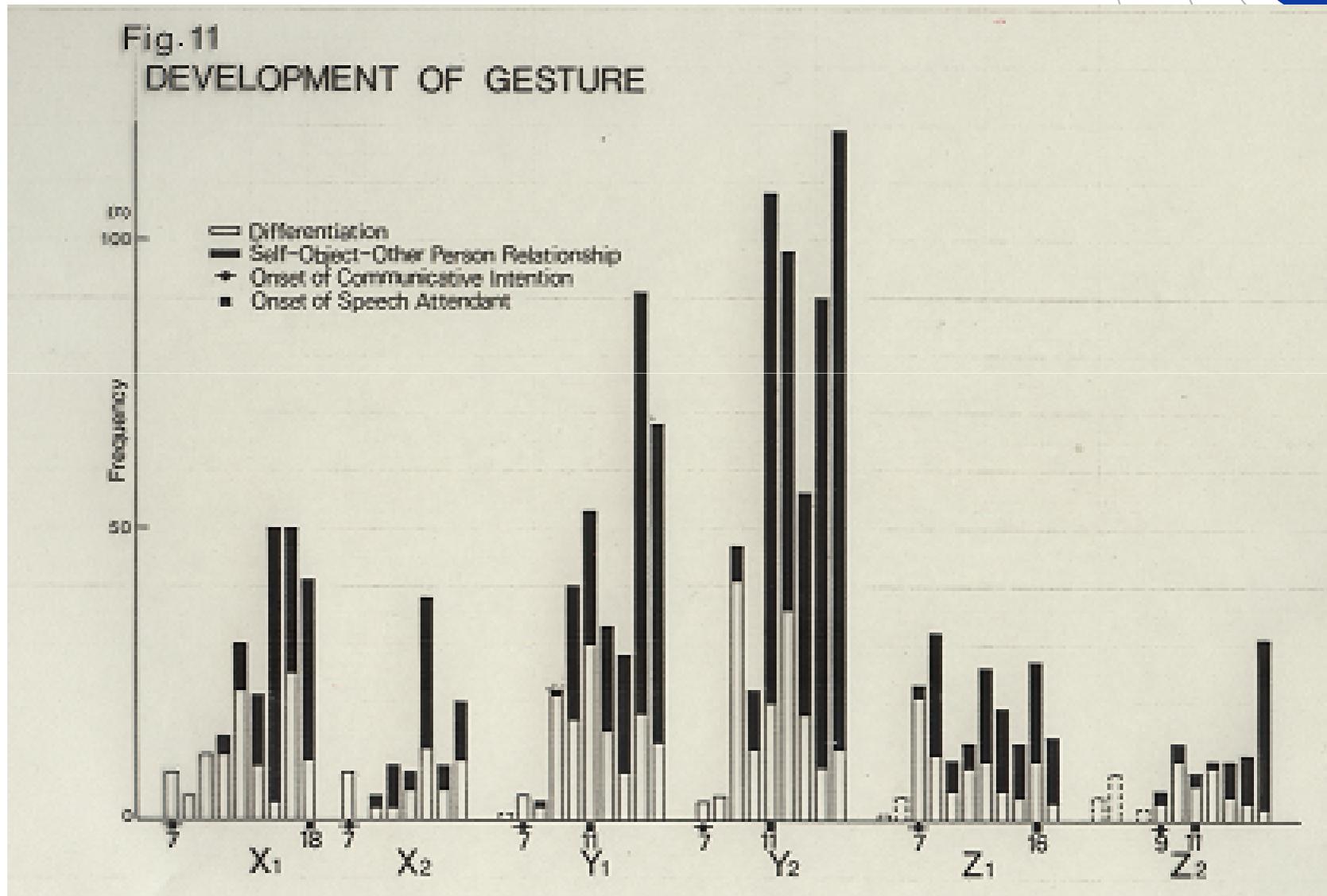
乳児の言語発達速度; $X < Y = Z$

初語出現の早い子ども・遅い子ども



初語出現の早い子どもと遅い子ども
(養育者の呼びかけ行動の単位時間あたりの頻度)

ジェスチャー行動の発 $Z=X \ll Y$



結果のまとめ



結果:

(1) 養育者のことばかけ;

$$X < Y < Z$$

(2) 乳児の発声行動;

$$X < Y < Z$$

(3) ジェスチャー行動;

$$X = Z < Y$$

X(複数保母制)とZ(家庭)が共に低いのは?

→ Xでは保育者が乳児の状態に鈍感で身振りが抑えられる

Zでは母親が乳児の状態に敏感なので身振りの必要なし

有意味語の獲得速度



結果:

(4) 有意味語獲得速度;

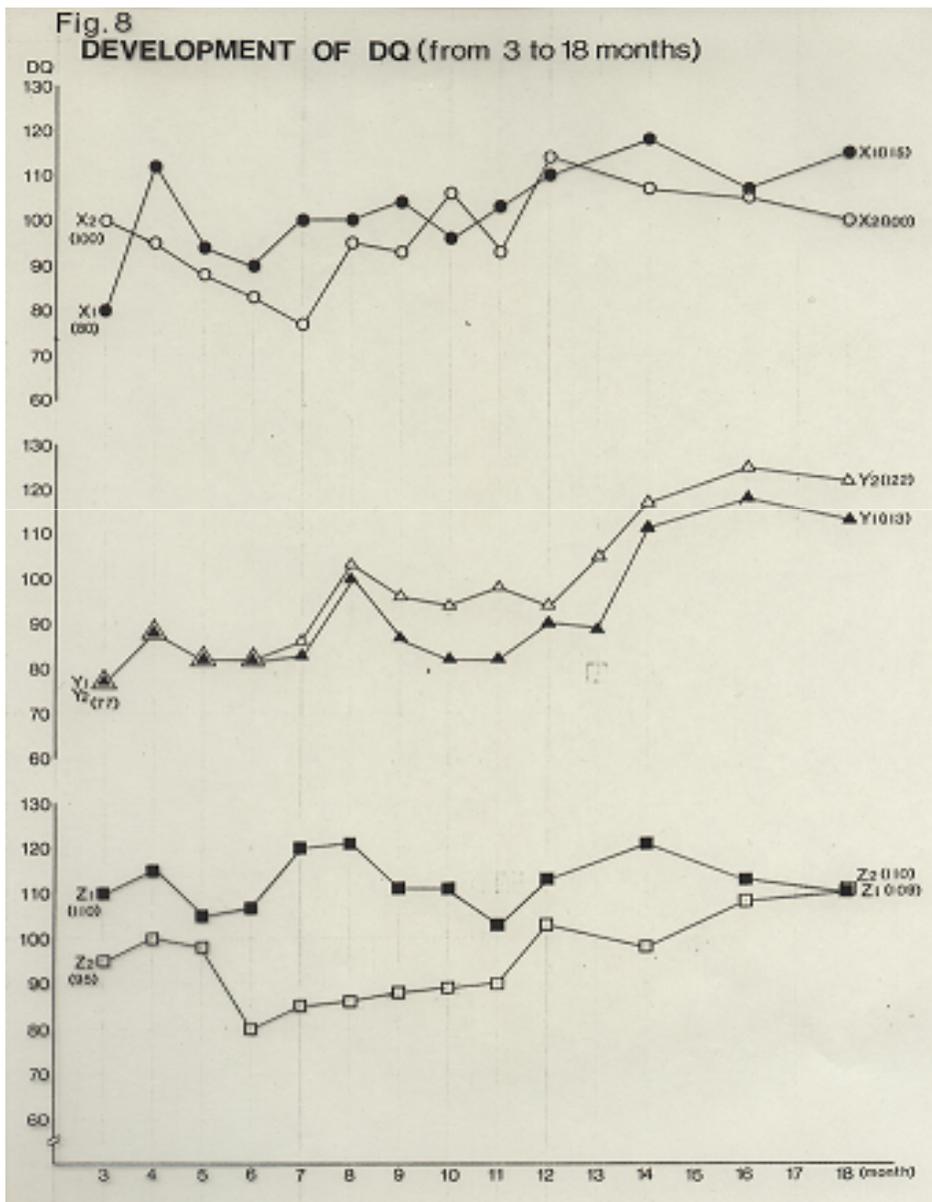
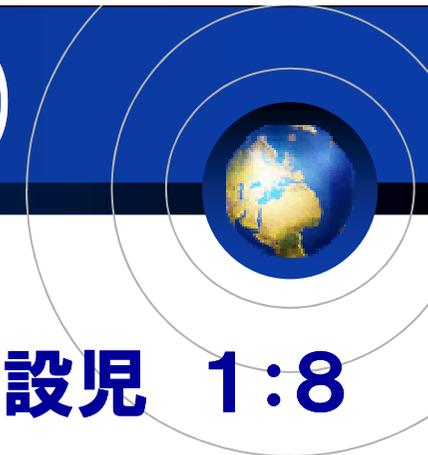
$X < < Z, Y$

18ヶ月時点	X1 : 4	X2 : 0
語彙数	Y1 : 22	Y2 : 29
	Z1 : 16	Z2 : 72

示唆:

**愛着(attachment)がコミュニケーション
行動の基盤となる**

知能の発達：発達指数(DQ)



X1 115
X2 105

施設児 1:8

Y2 128
Y1 118

施設児 1:3

Z1 118
Z2 108

家庭児 1:1

**DQ ⇔ 施設児が低い
わけではない!**

この事例からの示唆



- (1) 養育者との愛着(attachment)が
コミュニケーション行動の基盤となる。
- (2) 養育者は、**生物学的母親**である
必要はない。
- (3) 社会的やり取りの**質**が問題である。



to be continued